

標茶町立標茶小学校 フィールド学習 実施内容

《概要》

[日程] 2017年9月5日(火)

[参加者] 5年生児童 55名

[講師・案内] 寺内 聡(環境省)、山本泰志(北海道環境財団)

[フィールド学習の目的]

標茶高校のフィールドで目にした、生き物、川、林などの様々な要素が、眼前の雄大な湿原景観に広がっていることを体感し、地域の誇りとして湿原を捉える気持ちを育む。また、流水により大規模侵食された河川での活動を通して、湿原に起こっている問題や近年の変化を知り、自分たちは湿原をどうしていきたいか考えるきっかけづくりを行う。

[実施プログラムの概要]

8:50 小学校出発

9:30 二本松展望台でのフィールド学習

10:15 スガワラカヌーポートから湿原を流れる川の観察

11:00 久著呂川(中久著呂地区)の侵食箇所を観察

12:25 小学校帰着

《実施内容(記録)》

久著呂川での活動のみ抜粋

■ 久著呂川(中久著呂地区)の侵食箇所を観察(11:00)

グループ毎に水の力によって大きく侵食された場所を観察。侵食を受ける前、浸食により次第に景観が変わっていく様子等を写真で確認しながら、ここで起こっている問題についてお話。

この川も昔は先ほど見た川の姿のように、曲がりくねっていて、川の両岸にある植物と川の水面との距離は近い姿の川だった。川の横には牧草地が広がっているが、人が生活していくために、数十年前に人の力で川をまっすぐにして、両岸がくずれないようにコンクリートで固める工事が行われた。その後、平成のはじめ頃から少しずつ川の岸や底が水の力で削られはじめ、20年程で川の底が5m程も削れてしまった。今、川の岸は崖のようにになっているが、元々は川の下、地面の下にあった場所がむきだしになっている。川の岸



に生えている植物がかつては、川の水面の近いところに生えていた。ここで削られた土砂は、川

の水に運ばれて釧路湿原まで運ばれる。そうすると、釧路湿原に少しずつ土砂がたまっていき、先ほど展望台から見えたハンノキという木が増えてしまうということも起こってきた。湿原にだけ生きている植物や動物が減ってしまうということも心配される。このため、この場所から下流に行った場所では、川の幅を広げたり、川が曲がる場所、川の底などに石のカゴを入れたりして、これ以上削られないようにし、次第に自然の石がたまっていくことを期待している。

お話の後、思い思いに川の様子や岸の砂の様子を管理道や法面から観察。

■ 標茶町農村環境改善センターにてトイレ休憩（11:40）

■ 小学校に向けて移動（11:50）

車中にて質疑応答

■ 小学校着（12:25）